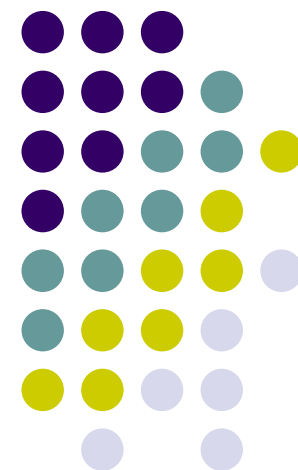


# 韓国のFTA戦略

早稲田大学政治経済学部  
深川由起子





# Outline: 米韓FTA、それから

- 韓国のFTA戦略: 基本的性格と背景
- 転換点としての米韓FTA
- 李明博政権のFTA戦略
- 米韓FTAの批准と農業対策
- 日韓の違いと韓国からの示唆
- 日韓FTA再交渉に向けて

# 韓国のFTA戦略(1): 基本的特徴と背景



- 原点としての通貨危機
  - ⇔ Global志向・先進国志向・弱い地域志向
  - ⇔ 包括志向(＋直接投資・サービス≠中国・ASEAN)
  - ⇔ 効果最大化(高い輸出依存度) > 費用最小化
- 大統領制のダイナミクス
  - ⇔ 少ない縦割構造、トップダウンによる迅速交渉
  - ⇔ 濃厚な政治性、外交文脈／実利主義の不在
  - ⇔ 世論 > 利害組織間調整、乏しい政策一貫性

## 韓国のFTA戦略(2): 地域主義の変遷



- 金大中政権: グローバリズムからローカリズムへ
  - (1) グローバル志向 (開放小経済 → 「巨大経済圏」)
    - ⇒ 太陽政策 (2000年) ⇒ 北東アジア志向 (日中韓)
  - (2) 市場対話姿勢、輸出拡大・外資誘致 ⇒ 日韓FTA構想浮上 ⇒ 「High level FTA」、日韓基軸の東アジア
- 盧武鉉政権: ローカリズムからグローバリズムへ
  - (1) 北朝鮮問題のグローバル化: 日韓交渉の挫折、再グローバル志向 (開城基準) ⇒ 米、EU
  - (2) 輸出依存型成長・内需閉塞感 ⇒ 支持率低下 ⇒ FTAナショナリズム、日中サンドイッチ構造論

# 韓国のFTA戦略(3): 転換点としての米韓



- 米韓FTAの異質性

(1)時限性と拙速: TPAの期限切れ、米韓政治日程

→研究会なし、脆弱部門への根回しなし、先行  
FTAとの一貫性なし

(2)政治性: 米韓同盟再構築、米の北朝鮮政策転換

→開城工業団地問題への執着

→日中>米EUの「バランスー論」

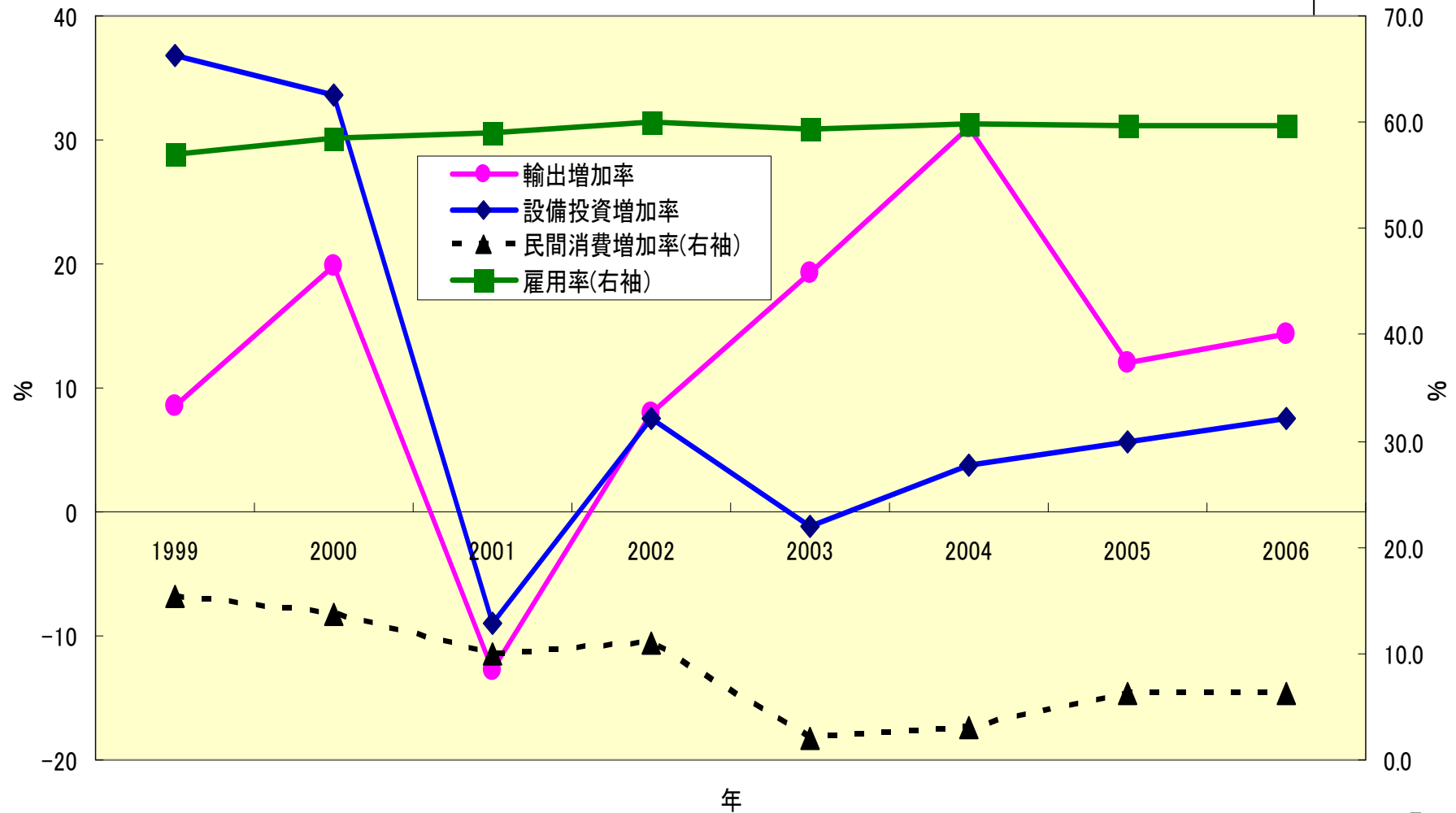
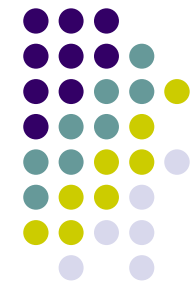
(3)非地域性: 東アジア連携からの浮き上がり

# 韓国のFTA戦略(4): 李明博政権のFTA戦略

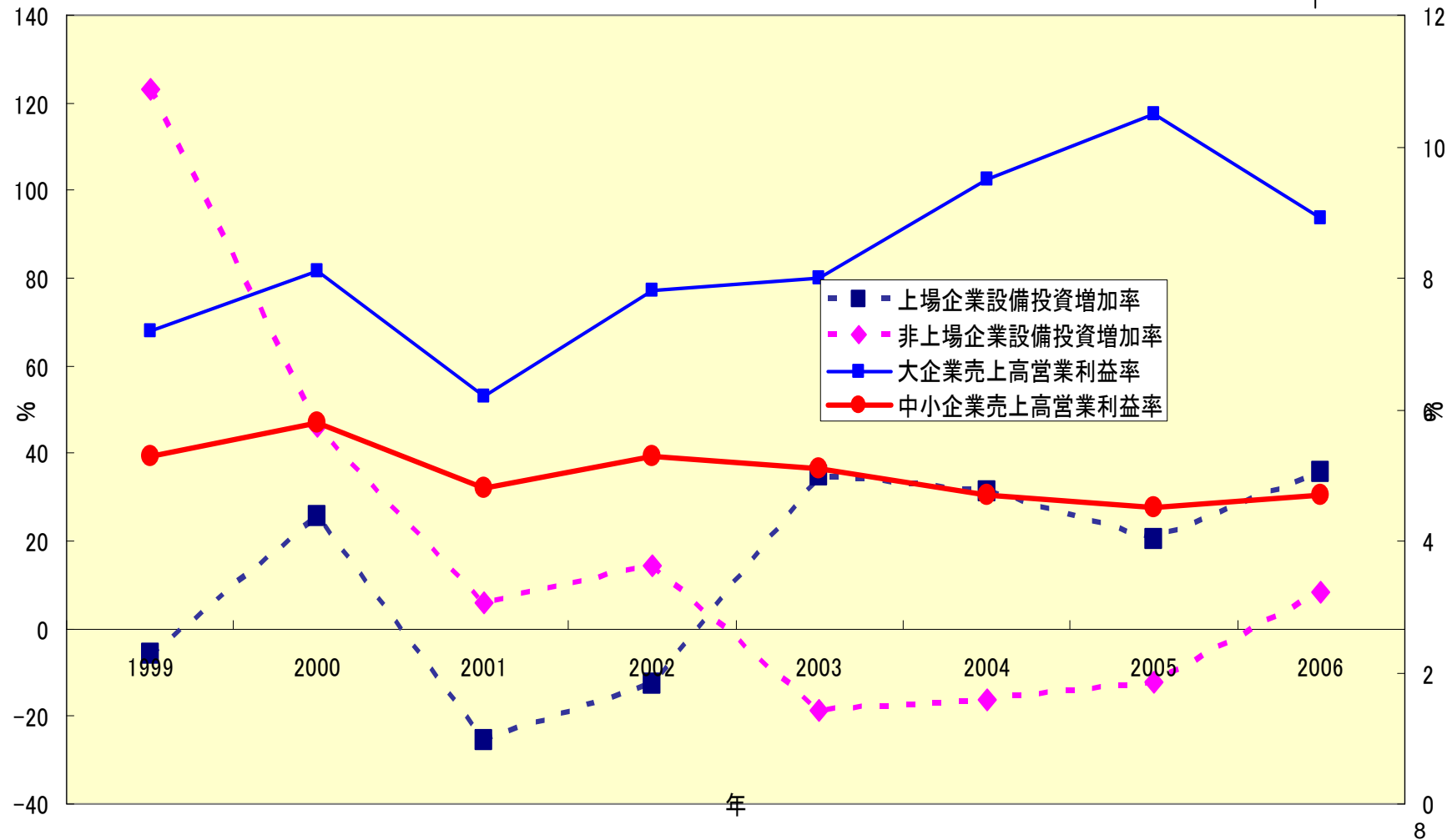


- 新グローバルイズムの形成
    - バランサー論、対北融和から日米韓基軸へ？
    - 米、EU重視から日韓中枠組みへ？
    - ナショナリズムから経済実利へ（「経済大統領」）？
  - 優先順位の変化
    - 経済課題とFTAの連動（雇用、中小企業）
    - 外資誘致偏重から設備投資全体の活性化へ
    - “同時多発”主義の限界、新興市場戦略（資源外交の強化）
- ⇔ 行政改革（首相権限の強化、「外交統一部」）

# 二極化する国内経済(1): 輸出の好調と内需不振



# 二極化する国内経済(2): 大企業と中小企業





# 国内経済の停滞：(1)投資・消費の不振



←中小企業投資不振＋FDI流入不振＋対外投資増

←サービス業不振

⇒潜在成長力の低下

⇒雇用不振→消費不振→中小企業・自営業問題の  
構造化

⇒中国の追い上げ、産業空洞化？

⇒輸出代替型対外投資？

## 国内経済の停滞: (2)労働改革の停滞



- ← 組織率低下でも減らない労働争議
- ← 労組の暴力化行動、法遵守問題
- ← 弱い市場調整力(専門性・経験の評価制度)
- ⇒ 労組の既得権、福祉厚生整備＝高コスト化
  - ①雇用の短期化、②“非正規雇用”の増大、③若年失業の長期化(韓国版NEET?)
- ⇒ 「両極化」の定着、消費不振

## 国内経済の停滞:(3)政治・政策変更リスク



- ← 朝令暮改:歪曲、不安定化した不動産市場、不法労働活動対処、企業統治介入....
- ← 戦略・政策間矛盾:農業、中小企業、地方vs. ハブ機能強化(小国モデル)
- ← ホピュリズム:労働者保護、社会保障拡大、環境保護、不動産課税、規制緩和不足...
- ただし、「人為的景気浮揚策」の弊害はなし



# 対外部門の成長は当面続くが...？

- 豊かな手元流動性、財務機能の強化
- 広告、マーケティング、IRの洗練
- 新興市場の成長持続、積極的な市場戦略
- 日本との棲み分け
- FTA多角化による貿易障壁撤廃効果（対米、対EU、対中）
- 「財閥」企業の分散、新興企業の登場
- 専門経営者の質的向上、人材の国際化



## 依然、重い国内経済の桎梏

- 格差と「格差感」: 再配分政策の政治化、「反企業情緒」の定着、国内規制→下がらない国内コスト
- 雇用摩擦の深刻化→対中“技術流出”への懸念 (Wibro技術事件) (+中国ショックの可能性)
- 深刻な技術革新システム問題、理工系離れ  
例: 制度化の追いつかない政治的“知識基盤産業育成”→ES細胞論文捏造問題(06年)

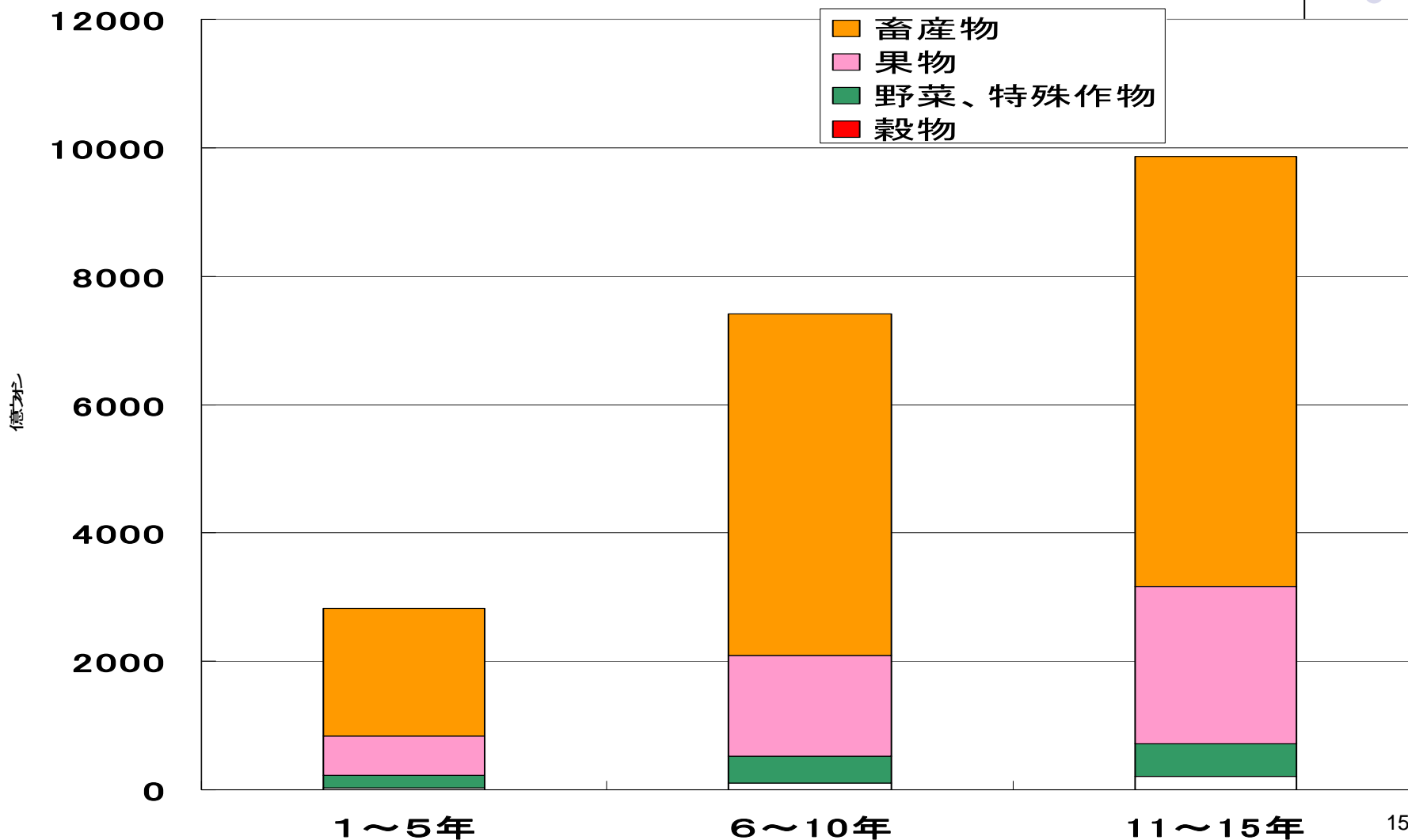
# 米韓FTAと韓国農業(1): 開放枠組み



- 完全除外はコメだけ
- 多様な措置: 即時関税撤廃、ASGセーフガード(回数制限なし)、TRQ、(関税割り当ての透明性約束)、季節関税、用途別規制
- 多様な関税撤廃期間: 2~20年、特定日時指定
- 即時関税撤廃: 品目別37.8%、輸入金額55.8%(5年以内: 同61%、68%、加工用・飼料用材料、生きた動物、茶類、採油用種実、花、穀物など。)
- 長期関税撤廃期間: 肉類、酪農品(10年以上が39%)、タバコ、果物(リンゴ、梨で20年)

# 米韓FTAと韓国農業(2):生産減少効果

## 果(韓国農業経済研究院)



## 米韓FTAと韓国農業(2): 影響



- 生産額: 圧倒的な畜産への影響、少ない穀物(小麦、大豆)、限定的な野菜・果物類
- 生産減少率: 油脂作物(▲49.8%)、畜産物(▲14.5%)
- 雇用: 畜産物(▲14.3%)、酪農(▲17.8%)、少ない果物・野菜(▲2.8%)



# 米韓FTAと韓国農業(3): 政治性



- 感情論としてのコメ＝除外
- 地域問題のミカン(済州道への集中、地域GNP比重、歴史問題)、ブドウに季節関税導入
- BSE問題の牛肉(地域的集中なく、影響力の弱い韓牛農家、ただし韓牛以外は高専業)、比重小・政治性小の酪農
- 韓チリに生き残ったリンゴ、ナシ(保守政権基盤で政治力大なるも基盤整備で対応)
- 生産比重の小さな小麦、大豆
- 米国の競争力弱いトウガラシ、ニンニク
- 沿岸漁民への影響少ない水産物



# 米韓FTAと韓国農業(4): 対立構図

- 組織力なき農民団体  
全農: 小農中心、反米イデオロギー、農民保護  
全農経連: 大規模農中心、行政寄り、補償条件  
農協: 地域農業・農村保護
- 弱い農林族: 急激な都市化、短い地方自治
- 強力な市民団体、労組(汎国本など)  
反米勢力、反グローバル、環境、「財閥」団体  
→米韓FTAは米韓問題、≠農業問題?
- 伝統地域政治

# 米韓FTAと韓国農業(5): 国内対策①



- 基本類型は韓チリFTA:

① 所得補償 (輸入による価格下落で被害が生じた場合(過去5年の粗収入が最高/最低の年を除いた3年平均の80%を対象)、品目に関わらず、その減少分の85%を補填。直接でなくても、関連可:オレンジに対するミカン。米韓では年度別「基準輸入量」の設定を検討)

② 廃業支援 (発効5年以内を予定、輸入被害の判断基準は年度別、米韓では所得から自家労力費、土地用役費、資本用役費を差し引いたネットの収入を対象とし、厳格化)

③ 競争力強化

④ 体質改善

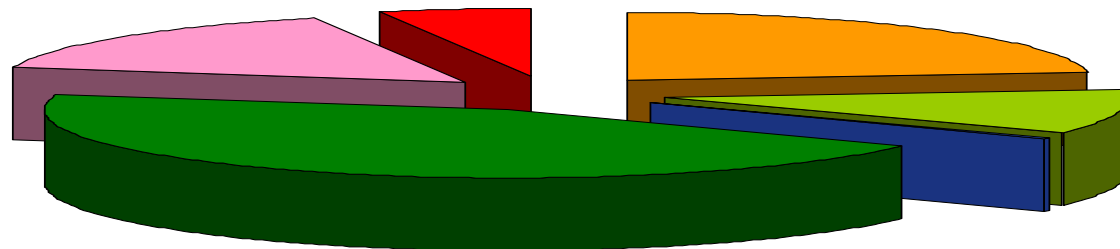
# 米韓FTAと韓国農業(5): 国内対策②



- 投融資規模: 08年1兆4498億W、  
09~2017年18兆9129億ウォン

2009~2017年の投融資予算

- 競争力強化(畜産)
- 競争力強化(園芸)
- 競争力強化(食糧)
- 体質改善(後継者育成等)
- 成長基盤拡充(技術開発等)
- 短期的被害補填



# 米韓FTAと韓国農業(5):国内対策③



## ● 競争力強化:品目別政策

**穀物:** 大豆中心、麦・ジャガイモ:ブランド化、(高冷地等)流通、親環境・技術開発、麦は作付けの転換、所得補填も

**畜産:** 牛肉・酪農中心:広域ブランド化による品質差別化、原産地表示強化、偽装流通の防止、飼育から消費までのSCM、ハザード分析(HACCP)定着、防疫、親環境経営(糞尿処理)、飼料供給の拡充

**園芸:** 果物中心:糖度改善に向けた土壌改良その他の差別化、拠点産地センターなど流通システム強化、ブランド経営支援、野菜・ニンジンに価格競争力強化や作付け転換、農業施設支援も

# 米韓FTAと韓国農業(5): 国内対策④



- **体質改善 (FTA対策の6割): 農家類型別、地域別、機能政策**

**機能:** 農業振興地域の専業農家支援、兼業農家の所得向上支援

**多様な農業主体:** 家族農対策(後継者問題、高齢農の引退誘導、社会保障)、一部直接所得保障、農家登録制(農業法人)の導入

**リスクの軽減:** 農業再保険制度、農地賃貸の促進(8年以上で譲渡所得税減免等)、後継農家への営農基盤支援、大規模農業支援

**潜在力の拡充:** 食品加工事業、親環境型農業、バイオ事業支援、輸出支援(輸出用農業団地造成、海外韓食堂DBまで)

## 日韓の違いと韓国からの示唆点



- 政治的legacy cost、中央集権型FTA体制  
→ 国益論とスピード、総合カードゲーム(米韓)
- 切迫感、総枠としての“小国モデル”合意  
→ 世論の強いFTA支持(難局は正面突破)
- 「似て非なる」日韓関係の活用(三星モデル)  
→ 同一の方向性、しかし差別戦略  
→ 日本:韓国市場の戦略的価値認識?



## 米韓FTAの批准展望

- 合意すれども批准せず、の心地よさ
- 米韓：批准負担の政治的落差
- ねじれ政策＝FTAの合意、批准困難
- 20年に一度の政局（大統領選挙→国会議員選挙）
  - 与党：合意内容不安、補償政策不安
  - 野党：既得権層批判（格差、倫理問題）





# 日韓FTA再交渉の条件(1)

- 米韓FTAの含意：
  - ① 重要な政治的意思の表示
  - ② 国益レベルのコンセンサス
  - ③ 地政学論理（開城工業団地問題）
  - ④ 調整なき行政縦割り交渉の限界
  - ⑤ 「拙速の優位」（時限性）

# 日韓FTA再交渉の条件(2)



- 戦略の立て直し
  - ① 政治的意思：官邸のリーダーシップ
    - 構造改革との連動（農業、労働移動）
  - ② 地域主義の中の位置付け
    - 中国のBig offerへの対処
    - 日韓から日中韓への展望
  - ③ 行政縦割の限界：日系企業権益保護 +  $\alpha$
  - ④ スピード：韓国の先行を外圧に
  - ⑤ 市場力より、コンサル力を交渉カードに

# Asia Gate Way:機能的接近の強化



- 漸進戦略: 実利の先行から国内調整部門の時間を獲得
- 濃密な国内経済との連動(規制緩和)
- 実利の実感、東アジア連携への寄与
- 非政治性: 中国・香港・台湾包摂の可能性(物流、金融)